

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙②

応募するカーボン・オフセットの取組についての基礎情報 (1次審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙②全体で A4 用紙 3 ページ以内にまとめてください。

※第1回カーボン・オフセット大賞の1次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. 応募するカーボン・オフセット活動の名称・タイトル

カーボン・オフセット認証を取得済みの活動については、認証番号もあわせて記載下さい。

宮古島トライアスロンのカーボン・オフセット ～被災地支援&地産地消型～

2. カーボン・オフセット活動の概要

<カーボン・オフセットの分類>

以下の4分類からひとつ選び、□に✓をつけてください。

- 商品使用・サービスオフセット
- 会議・イベントオフセット
- 自己活動オフセット
- 自己活動オフセット支援

【参考】

環境省による「カーボン・オフセット第三者認証基準(Ver. 1.1)」に基づく分類

http://www.jcs.go.jp/pdf/document/ki_jun.pdf

<カーボン・オフセット対象・・バウンダリ>

カーボン・オフセットの取組内容に関して、オフセットの対象範囲をお書きください。

【例】3①-1に記載した算定範囲と同じ or 算定範囲のうち、○○、○○の部分に関してカーボン・オフセットの対象とした

「第28回全日本トライアスロン宮古島大会」の参加予定選手1500名的那覇～宮古島間の飛行機による移動をカーボン・オフセットの対象とした。

<カーボン・オフセットの取組の実施期間>

カーボン・オフセットの実施期間についてお書きください。その際、2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを実施継続していた事例または2010年1月1日以降にカーボン・オフセットを開始した事例であることが応募にあたっての必要要件となりますので、御注意ください。

2012年4月15日（第28回全日本トライアスロン宮古島大会当日）

<カーボン・オフセットの取組に関する情報提供方法>

自社HP等、カーボン・オフセットの取組をウェブに掲載されている場合は、URLを記載願います。

■28回大会のHPにて情報公開を実施した

3. 1次審査項目

①自らの行動に伴う温室効果ガスの排出量の認識

カーボン・オフセットの取組内容に際して、排出量の算定についてお書きください。

(自己活動オフセット支援以外の場合)

①-1 排出量の算定方法及び算定範囲

- ・算定対象：第28回全日本トライアスロン宮古島大会（2012年4月15日開催）
- ・算定範囲：参加者1500名的那覇～宮古島間の飛行機移動に伴うCO2排出量

算定に当たっては、カーボン・オフセットの対象活動から生じる温室効果ガス排出量の算定方法ガイドライン Ver.2.0 (http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset/guideline/guideline-cmghg.pdf) を用いた。

177 (マイル：沖縄宮古間片道) × 0.083 (燃料消費率) × 2,462.6 (航空機のGHG排出係数) = 36.1780566

上記により、往復で72.3561132kg-CO2となる。

今回は、トライアスロン参加者への解り易いPRの観点から100kg-CO2の排出権を充当し、約138%のオフセットとした。

②排出削減努力の実施

取り組まれた排出削減努力について該当とする取組に✓をつけてください(複数可)。なお、取組のアピールも含めた詳細については、応募用紙③「1.CO2排出削減努力と関係者の理解や協力」に詳しく記載して下さい。

節電 節水 廃棄物の減量化 省電力機器の導入 公共交通機関の利用・呼びかけ

その他(具体的に

)

③オフセットの手続き

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等の種類>

使用したクレジット等の種類をお書きください。なお、異なるクレジットを併用した場合の各割合(%)についても記載してください。【例】J-VER(○%)、CER等(△%)など

国内クレジット100%

<カーボン・オフセットに利用したクレジット等のプロジェクト名称>

使用したクレジット等の具体的な温室効果ガス削減・吸収プロジェクト名をお書きください。

株式会社アマタケ「プロイラー農場におけるボイラーの更新(重油→木質バイオマス)」10t
有限会社トミーランドリー「リネン工場におけるボイラ高効率化による排出削減事業」40t
協同組合盛岡南ショッピングセンター「ショッピングセンターにおける照明設備の更新」30t
株式会社ケディカ「めっき工場におけるボイラーの更新(灯油→都市ガス)」40t
国立大学法人琉球大学「大学における照明設備の更新(LED化)・太陽光発電設備の導入、変圧器の更新」30t

<カーボン・オフセットに利用したクレジットの無効化に関する状況>

取消、償却実施年月、もしくはその予定についてお書きください。

2012年4月16日償却済み

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙③

応募するカーボン・オフセットの取組についてアピールポイント (本審査での重点ポイント)

応募に関して、写真（JPEG 等）や概要図（PDF 等）は別途メール等で事務局までお送りください。

応募の際にいただいた資料は返却いたしません。あらかじめご了承ください。

※記述欄が不足する場合は、用紙の追加も可能ですが、応募用紙③全体で A4 用紙 4 ページ以内にまとめてください。

※第 1 回カーボン・オフセット大賞の 1 次審査を通過した事例一覧もご参照ください。

URL : http://www.carbonoffset-network.jp/award1st/entry_datalist.html

1. CO2 排出削減努力と関係者の理解や協力

- ①CO2 排出削減努力の項目（内容）について、期待した効果とその成果について具体的かつより定量的にアピールしてください。
- ②CO2 排出削減努力の必要性・重要性について関係者の理解と協力を得るにあたっての工夫とその成果をアピールしてください。

私たちの宮古島は、エメラルドグリーンの海というとりどりの植物、そしてまばゆい太陽（ていだ）の輝く南の島です。四方を海に囲まれ、隆起サンゴ礁からなる低い平坦な地形は、台風や干ばつの被害を受けやすく厳しい自然環境にあります。生活用水を含め水源のすべてを地下水に頼っている現状と合わせ、住民の生活および産業を潤す重要な要素である海との相互保全是、重要な課題となっております。

そのような中、今、世界的規模で問題となっている環境問題の改善は、各地域ごとの小さな取り組み・活動が求められることから、私たちは、ともに考え行動し、地球環境にやさしい「我（ばん）たが美（か）ぎ島（すま）・みゃ〜く」をつくることを宣言しております。

1. 私たちは、島の生活を支えるかけがえのない地下水を守ります。
1. 私たちは、美しい珊瑚礁の海を守ります。
1. 私たちは、みんなの知恵と工夫で、限りある資源とエネルギーを大切にします。
1. 私たちは、ゴミのない地球にやさしい美（か）ぎ島（すま）宮古（みゃ〜く）島（ずま）を目指し一人ひとり行動します。
1. 私たちは、よりよい地球環境を取り戻し・守るため、世界の人々とともに考え・行動し、未来へバトンタッチします。
1. 私たちは、緑・海・空を守り、すべての生物がともに生きていける環境づくりのため行動します。

上記に準じて、宮古島市内の島民および参加者の皆様へ節電とごみの削減について広報を実施いたしました。
また、事前準備、運営、表彰式、ふれあいパーティーなどにおいて節電・ごみ減量に努めました。

2. カーボン・オフセットの内容

- ①自らが行うカーボン・オフセットの取組の意義・重要性について、社会にもたらす波及効果などの観点も踏まえてアピールしてください。

宮古島市は、平成 21 年度環境モデル都市に採択されており、島を挙げて環境配慮を PR しております。例えば HP のソースのタイトルも「宮古島市ホームページ - エコアイランド宮古島」としてしております。島の地理的な特徴としても、島の全体がおおむね平坦で低い台地状を呈し、山や河川が全くなく、生活用水等のほとんどを地下水に頼る点があげられます。また、降雨は地下水盆に溜まり、生活用水、農業用水等で使用されなかった地下水は、余剰水として海へ流れ出ることから、島周辺の珊瑚などの海洋資源を育む循環型社会を構築しております。また、沖縄本島から約 300 km はなれた島嶼地域であることから、宮古島独自の電力供給体系を有し、自然資源を活かした太陽光発電・風力発電の開発も導入され、その施設は観光資源としても大いに活用されております。

こういった状況もかさなり、またエコアイランドとして各種誘致に取り組んでいく中で、国際的なイベントである全日本トライアスロン宮古島大会の開催や、宮古島エコマラソン、プロ野球キャンプの誘致等の地道な広報により年間約 40 万人の観光客が訪れるまでになりました。

今回のカーボン・オフセットは宮古島の観光客・自然のファンの皆様、そして観光と自然のトレードオフに悩む日本全国のイベントや自治体に対して、少なからず PR できたと考えております。

- ②自らが行うカーボン・オフセットの取組の継続性、展開への意欲や見通しについてアピールしてください。

10月1日（月）、宮古島市役所平良庁舎において、「第29回全日本トライアスロン宮古島大会選手募集記者会見」が行われ、下地敏彦大会長（宮古島市長）より、第29回大会の開催要項が発表されました。（4月18日（木）～4月22日（月）の実施）会見では触れませんでした。29回大会についてもカーボン・オフセットに取り組むことを予定しております。
また、節目の30回大会は大々的に取り組む予定ですが、同時に環境にも配慮したイベントとしていく所存です。

3. 環境、地域・社会、産業振興等の貢献性

今回のカーボン・オフセットでは、東北企業の創出したクレジットと、沖縄県内のクレジットを活用しました。東日本大震災の被災地の中小企業の支援および、地元沖縄の環境価値活用・資金投入に貢献いたしました。

4. 普及啓発の創意工夫とその成果

各新聞社へカーボン・オフセットのプレスリリースを実施いたしました。
掲載は別紙をご参照ください。

5. ストーリー性

世界有数の観光地である沖縄県、そして宮古島では、入域者の拡大により産業発展につながる分、島内の自然環境や生態系に影響を与えることが多くあります。また、航空移動になるため、排出量は高くなってしまいがちです。しかしながら、自然環境に配慮しなければ、これらの観光資源も失われてしまいます。

自然を守るには、住民と観光客がお互いを理解しながら進めていくことが重要です。片方の立場の人たちを責めても意味がありません。今回の28回トライアスロン大会は、カーボン・オフセットに取り組むことで40万人の観光客に宮古島、沖縄、日本国の環境と観光について考えてもらうきっかけづくりができたと考えております。

以上に記載された取組について別途説明資料がございましたら、PDFの場合はメールでお送りいただくか、現物資料を郵送ください。

また、公開可能な商品・サービスの様子がわかる写真を（JPEG等）お送りください。

第2回 カーボン・オフセット大賞 応募用紙一式 送付先およびお問い合わせ先

カーボン・オフセット推進ネットワーク事務局
(担当：入山、井上)

〒東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス 7階

電話 03-5776-1223 ファックス 03-5472-0145

E-Mail award@carbonoffset-network.jp